



大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
- 事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6 ユアサビル 2階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
- 会長：大越 将司 幹事：星野 実
- 広報・公共イメージ向上委員会
委員長 小倉 光男・会報担当 石田 英世

2023年8月30日(水)
第25巻第 8号

通巻第1038号

<http://www.oamirotary.com>
E-mail: rc@oamirotary.com



世界に希望を生み出そう

本日の例会

点 鐘 会長 大越 将司
ソング 我等の生業
会長挨拶 会長 大越 将司
幹事報告 幹事 星野 実
プログラム 卓話 呉 高潔 様
終了式・記念品贈呈

ニコニコBOX

大越会長
四之宮会員、退院おめでとうございます。
お帰りなさいませ。
四之宮 由己会員
私の病氣見舞ありがとうございました。
小高 徹 会員
来週の例会申し訳ありませんが欠席致します。四之宮会員の元気そうな顔にニコニコです。
石田会員、クラブ活動計画書作成ありがとうございました。ニコニコです。

| 例会日 | 8月23日 | 8月2日 |
|-----|--------|--------|
| 会員数 | 30 | 30 |
| 出席 | 17 | 16 |
| 欠席 | 13 | 14 |
| M U | 0 | 0 |
| 免除 | 7 | 9 |
| 出席率 | 80.00% | 83.33% |

会長挨拶

大越 将司 会長



みなさん、こんにちは。お盆休みは、いかがお過ごしでしたでしょうか。

私は小高会員・高山会員のお誘いで、東金サンピアで開催されたスリランカの子どもたちの絵画展を見に行きました。コスモス奨学金・鈴木先生からご説明頂き、色彩豊かなスリランカの少年少女の絵画を拝見させて頂きました。今回参加された子供たちには、大網 RC から参加賞としてボールペン500本が授与されました。この他、入選した子どもたちには学用品が購入できるクーポン券がプレゼントされたとのことです。

色鮮やかなスリランカの子どもたちの絵を見たとき、私は日本人の子どもはここまで豊かな色づかいが出来るのかなと思いました。高山会員いわく、「国は貧しくても、日本人が忘れてしまった希望や明るさが、スリランカの子どもたちにはある」と話しておられました。全くの同感です。絵から溢れ出る活力を、私も感じました。

仕事柄でしょうか、私は「虐待を受けている子どもたちは、こんなに豊かな表現が出来るのだろうか」と思い、調べてみました。少し古いですが、2000年に大阪の大学・児童相談所等の研究チームが、医療機関・児童相談所に関わった被虐待児を無作為に抽出し、人物・樹木の絵をかかせてみた研究論文を読みました。そこでは、特徴的な結果が2つ報告されていました。

まず第一に、同年齢の児童に比べ、被虐待児のおよそ70%が知的水準を下回っていたそうです。

第二は、絵の特徴として、本来「あるべきもの」が欠如している、もしくはいびつな形で描かれていること。例えば、人物の絵でいえば、「鼻が欠如している」「四肢が極端に非対称」など。樹木の絵でいえば、「地平線が描かれない」ケースが多く、他「根の部分がない」「枝がない」といった傾向が、通常の子どもより多いそうです。今回拝見したスリランカの子どもたちが描く絵には、どれも当てはまりませんでした。

さて 幼少期に虐待を受けていた画家で、大変有名なのは、20世紀初頭のフランス画家「モーリス・ユトリロ」です。彼は性に奔放な母親の私生児として生まれ、育児放棄されて、祖母に育ててもらいました。その祖母が夜泣きする彼に、お乳代わりに酒を飲ませたため、わずか八歳でアルコール中毒症を発症。18歳で精神科病院に入院します。そこで治療の一環で行った、絵画で才能を見出されたそうです。

彼の作品で有名なのは、1910年前後にパリ・モンマルトルの街並みを描いたもので「白の時代」と呼ばれています。全体的に白を多く使い、薄暗い哀愁漂う街並みを描いたものです。その後も彼は、酒代の為に絵を描き続け、自堕落な人生を1955年71歳で閉じました。

現在 ユトリロ生誕140年を記念し、「白の時代」に着目した展覧会が、9月13日から横浜高島屋で開催されるそうです。子どもの成長と絵画には密接な関係があるようです。機会があれば、スリランカの絵画展と比較して見てみたいと考えております。

以上で、私の会長挨拶といたします。



第 5 回米山功労者 (マルチプル)
石田 英世 会員

地 区 大 会

【大会 1 日目】2023 年 10 月 21 日 (土)

会場 ホテルニューオータニ幕張

〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-120-3

電話 043-297-7777

登録開始：12 時 30 分 開会点鐘：13 時 00 分

出席者 大越会長、星野幹事

※地区大会信任状証明証「原本」を受付に
提出して下さい。

【R I 会長代理歓迎晩餐会】

2023 年 10 月 21 日 (土)

会場 ホテルニューオータニ幕張

〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-120-3

電話 043-297-7777

登録開始：16 時 30 分 開会：17 時 00 分

晩餐会登録料 1 人 25,000 円

出席対象者：会長・幹事

欠席

【大会 2 日目】2023 年 10 月 22 日 (日)

会場 ホテルニューオータニ幕張

〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-120-3

電話 043-297-7777

登録開始：8 時 30 分 開会点鐘：9 時 30 分

※本会議後の大懇親会 (無料)

出席者 (敬称略)：大越、星野、長谷川

石田、泉、西岡、小高、小倉、斉藤(敏)

斉藤(幸)、佐藤、四之宮、高山、吉原

14 名

※送迎バス 小倉観光サービス

「高校生インド派遣報告～愛とパワーを体感した 10 か月～」

ナマステ、メラナン すえいろは へー。

私はロータリー青少年交換プログラムで、君津ロータリークラブから 2022 年 8 月よりインドに派遣していただきました。このプログラムは、ロータリークラブから支援を得て、高校生が海外で 10 か月ホームステイをしながら学校に通い、現地の人と交流するプログラムです。派遣国と日本との親善交流のような役目もあり、G20 の関連行事に参加したり、小学校見学や障害者施設の訪問などをしました。また、日本の文化の紹介ということで、着物で踊ったり茶道なども披露しました。

私が派遣していただいた場所は、マハラシュトラ州のプネー (3131 地区) です。IT や教育の街で、インドの中で一番安全と言われています。言語は、インドの公用語ヒンディー語の他に、マハラシュトラ州独自のマラティー語、英語も日常的に使われていました。家族とはマラティー語、お買い物はヒンディー語、学校は英語という感じです。日本に住んでいると普段日本語しか耳に入っていないので、3 言語も話せるようになるか不安でしたが、次第に話せるようになっていきました。また、年間を通してたくさんのお祭りがあり、インド人と一緒にサリーを着て踊ったりして伝統文化を楽しみました。

私は 10 か月で 4 件のホストファミリーにお世話になりました。いろいろな家庭をみて共通するのが、家族親戚を大切に、愛情深いということです。私のことも親戚のように親しくしてくれました。私自身も部屋にこもらずなるべくリビングに居てたくさん質問をするなど、仲良くなる努力もしました。すると家族が歴史や神話まで教えてくれて、インド人の考え方を理解する助けになりました。また、メイドさんがいる家庭も多く、一緒にお話ししたり料理を手伝ったりして仲良くなりました。

食事はインドと言えばカレーというイメージはあると思いますが、実際、毎日カレーでした。といっても、スパイスたっぷりの炒め物や、豆をターメリックと煮込んだものなどバリエーション豊富で、家庭ごとに味付けも変わって、飽きることなく楽しめました。基本的に料理はベジタリアンで、肉を食べるのは週に一度ほど。日本では毎食何かしらの動物性食品をとりがちですが、豆や乳製品で十分満足できました。食事は手で食べます。左手は使わず、右手だけ。手で食べるとその食べ物にしっかり向き合えて、とろとろだったりカリッとした食感だけでなく“触感”からも味わえます。このように食べると本当においしく感じました。

学校は現地の人が通う高校に行きました。驚いたのは各教室に黒板の代わりに巨大なタッチパネルスクリーンがあったことです。日本より発達していて驚きました。学校によっても違うのかもしれませんが…カーストとは言わないものの、収入や住んでいる場所によって受けられる教育は違うのかなと思います。ほとんどの学校が小学校から英語で授業を行っているはずなのに、田舎に行った時には少し上の世代の人は全く英語が通じず、学校に行ったことがない方もいらっしゃいました。最近では政府や現地のロータリークラブの支援で学校に行ける子供たちが多くなっているそうです。

学校では現地のインド人と留学生の混合クラスで学びました。学校の行事で「伝統衣装を着ていく日」という行事があり、ホストファミリーにサリーを借りて行きました。友達と一緒に豪華な伝統衣装を着たのはいい思い出です。友達とは放課後一緒にご飯を食べに行ったり、休日に露店が立ち並ぶショッピングストリートに行きながらお買い物をしたりも楽しみました。

他にも、近所の方とも仲良くなりました。同じ団地に住んでいた友達です。みんなが顔なじみで、団地の中では子供たちが自由に遊べます。みんな人懐っこくて、小学生低学年くらいの子供たちが夕方になると外から「いろはー」と遊びに誘ってくれて、一緒に鬼ごっこをしたりと本当にかわいかったです。同年代の友達とは、毎夕食後に散歩をしておしゃべりしました。ご年配のマダムたちとは、毎朝一緒にヨガをして仲良くなりました。先生がいるわけではないですが、曜日ごとに決まったエクササイズがあり、若い私にもきつい腹筋や背筋の筋トレまであり、インド人のパワーを感じました。終わった後は少しおしゃべりをして解散です。どの年代の人も友達との関りを大切にするのがいいなあと思いました。

インドの老若男女と仲良くなっただけでなく、私と同じロータリー青少年交換プログラムでプネーに来ていたブラジルやフランスなどの留学生ともとても仲良くなりました。一緒にロータリー主催の旅行に行ったり、イベントに参加することも多く、その仲間たちから刺激をもらうこともたくさんありました。

コロナ禍で延期になり高 3 になってようやく実現した交換派遣。インドという素晴らしい国に出会い、たくさんの友達ができたこと、貴重な機会をいただきロータリークラブの皆さんにとっても感謝しています。これからはインドの魅力、世界中のロータリーのつながりのすばらしさをもっといろいろな人に知ってもらえるよう、ROTEX の活動に参加しつつ、インド料理のカフェを開くなどインドとの架け橋になる夢を追いかけていきたいと思っています。ありがとうございました。



* 思い出 *



氏名 陶 彩葉 (すえいろは) 様

【プロフィール】

- ・志学館高等部3年生
- ・2019 春休みベトナム交流
- ・2021～22 ローターリーバーチャル交流 (イタリア、アメリカと1年間オンラインにて交流)
- ・2022～23 ローターリー青少年交換プログラム (君津RCよりインド派遣)
- ・2023・6月に帰国後、高校3年に復学&ロテックスとして活動中



彩葉さんのジャケットには、留学生と友情を交わした沢山のバッジが付けられています。



<到着日>



<お祭りナヴァトリ>



<学校での伝統衣装を着る日>



<同学年の友達>



<小学生の友達>



<ホーリー祭>



<小学校見学>



<留学生>



<障がい者施設への訪問>